

- 入門者・一般使用者は、【3】と【4】のみの理解でかまわない。【4】の意味を持つ岩崎式日本語文を書きたい場合は、【3】のように書けばよいということ。
- 岩崎式日本語の言語学的解説においては【1】のように呼ばれる。
- 岩崎式日本語の開発・コンピュータ処理においては【2】が使用されている。
- 【5】の論理値の詳細については、別掲の「論理値表」を参照。
- 格詞・五言については、別掲の「我燈一覧表」を参照。

◆ 目次

§0 現代一般の日本語文

§1 単我燈文

1.1 格詞(主格に対する真格)

1.2 五言(心描言、抽化言未然形、抽化言已然形、抽出言未然形、抽出言已然形)

1.3 真我變化文

1.4 真我交替文

§2 単多我燈文

§3 複我燈文

§4 複多我燈文

§5 超我燈文(超我燈文となりやすい構文)

§6 超単我燈文

§7 超単多我燈文

§8 超複我燈文

§9 超複多我燈文

§10 特殊我燈文

§11 巨帯自我文(メガロエゴ文・ハイパー自我文)

§12 特殊空我文

§13 述語論理

§14 読解不可能文(文脈不可解文)

§15 「女の理由」文

【1】 岩崎式日本語文の種類(呼称)	【2】 岩崎式日本語の記号表記	【3】 上: 第四期岩崎式日本語文の一般表記 下: 読み(表記に用いてもよい)	【4】 現代一般の日本語文における意味(現代日本語訳)	【5】論理値t 「私は花に水をやっています。」が真である(最大値)・・・t=1 偽である(最小値)・・・t=0
§0 現代一般の日本語文				
現代一般の日本語文	Se(SHU)	私は花に水をやっています。 ワタシは花に水をやっています。	私は花に水をやっています。	1
§1 単我燈文				
主我文(上記の文の、岩崎式日本語における強調。)	Se(SHU)	私Ga(SHU)は花に水をやっています。 ワタシは花に水をやっています。	自我が明確なこの私自身によると、まさに私は花に水をやっています。	1
第五主我文	Se(SHU5)	私Ga(SHU5)は花に水をやっています。 ワシュゴは花に水をやっています。	まさに私が花に水をやっているのであって、そうしているのが私以外の何者でもないことは、神に誓って真実であり、その真実性はいかなる場合も変化しません。	1
第四主我文	Se(SHU4)	私Ga(SHU4)は花に水をやっています。 ワシュヨン(シ)は花に水をやっています。	まさに私が花に水をやっているのであって、そうしているのは私以外の何者でもないのです。	1
第三主我文	Se(SHU3)	私Ga(SHU3)は花に水をやっています。 ワシュサンは花に水をやっています。	まさに私が花に水をやっているのであって、そうしているのは私以外の何者でもないでしょう。	1
第二主我文	Se(SHU2)	私Ga(SHU2)は花に水をやっています。 ワシュニは花に水をやっています。	まさに私が花に水をやっていることには間違いありません。	1
第一主我文	Se(SHU1)	私Ga(SHU1)は花に水をやっています。 ワシュイチは花に水をやっています。	まさに私が花に水をやっているのは間違いありませんが、それはあくまで私の自我が判断したことです。	1
1.1 格詞(主格に対する真格)				
活主間我文	Se(KATSU-SHU)	私Ga(KATSU-SHU)は花に水をやっています。 ワカッシュは花に水をやっています。	ありとあらゆる行為・現象の行為者・主体を観察する私の自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1

活我文	Se(KATSU)	私Ga(KATSU)は花に水をやっています。 ワカツは花に水をやっています。	自由意志の有無にかかわらず起こる全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1
意活間我文	Se(I-KATSU)	私Ga(I-KATSU)は花に水をやっています。 ワイカツは花に水をやっています。	意志的・意識的に行う全ての行為に加えて、自動的に起こる生理・自然現象の行為者としての私にも自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1
意我文	Se(I)	私Ga(I)は花に水をやっています。 ワイは花に水をやっています。	意志的・意識的に行う全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1
能意間我文	Se(NO-I)	私Ga(NO-I)は花に水をやっています。 ワノウイは花に水をやっています。	可能な全ての行為に加えて、意志的・意識的に行う行為の行為者としての私にも自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1
能我文	Se(NO)	私Ga(NO)は花に水をやっています。 ワノウは花に水をやっています。	可能な全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1
希能間我文	Se(KI-NO)	私Ga(KI-NO)は花に水をやっています。 ワキノウは花に水をやっています。	希求して行う全ての行為に加えて、可能な行為の行為者としての私にも自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1
希我文	Se(KI)	私Ga(KI)は花に水をやっています。 ワキは花に水をやっています。	希求して行う全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1
及希間我文	Se(KYU-KI)	私Ga(KYU-KI)は花に水をやっています。 ワキュウキは花に水をやっています。	他者・対象に影響の及ぶ全ての行為に加えて、希求して行う行為の行為者としての私にも自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1
及我文	Se(KYU)	私Ga(KYU)は花に水をやっています。 ワキュウは花に水をやっています。	他者・対象に影響の及ぶ全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1
具及間我文	Se(GU-KYU)	私Ga(GU-KYU)は花に水をやっています。 ワグキュウは花に水をやっています。	道具・人為的手段を行使して行う全ての行為に加えて、他者・対象に影響の及ぶ行為の行為者としての私にも自我の存在を認めつつある私は、今、花に水をやっています。	1
具我文	Se(GU)	私Ga(GU)は花に水をやっています。 ワグは花に水をやっています。	道具・人為的手段を行使して行う全ての行為については行為者としての私の自我の存在を理解して生きる私は、今、花に水をやっています。	1

識具間我文	Se(SHIKI-GU)	私Ga(SHIKI-GU)は花に水をやっています。 ワシキグは花に水をやっています。	意識・自我というものの存在を理解し、道具・人為的手段を行使した行為を行うだけの意識・自我は持ちつつある私は、今、花に水をやっています。	1
識我文	Se(SHIKI)	私Ga(SHIKI)は花に水をやっています。 ワシキは花に水をやっています。	意識・自我というものの存在だけは認めている私は、今、花に水をやっています。	1
空識間我文	Se(KU-SHIKI)	私Ga(KU-SHIKI)は花に水をやっています。 ワクウシキは花に水をやっています。	意識・自我が萌芽しつつある私は、今、花に水をやっています。	1
初我文	Se(SHO)	私Ga(SHO)は花に水をやっています。 ワシヨは花に水をやっています。	意識・自我の萌芽の初期を生きる私は、今、花に水をやっています。	0.7~1
擬我文	Se(GI)	私Ga(GI)は花に水をやっています。 ワギは花に水をやっています。	意識・自我の存在が仮定にすぎない私は、今、花に水をやっています。	0.4~1
前我文	Se(ZEN)	私Ga(ZEN)は花に水をやっています。 ワゼンは花に水をやっています。	意識・自我のない私は、今、花に水をやっています。	0~1
空我文	Se(KU)	私Ga(KU)は花に水をやっています。 ワクウは花に水をやっています。	意識・自我の黎明期を生きる私は、今、花に水をやっています。	0~1
1.2 五言(心描言、抽化言未然形、抽化言已然形、抽出言未然形、抽出言已然形)				
第一主我心描言文	Se(SHU1,Gb)	私Ga(SHU1,Gb)は花に水をやっています。 ワシユイツツは花に水をやっています。	自我が何とか明確であることに過不足なく満足しているこの私自身によると、まさに私が花に水をやっています。	1
第一主我抽化言未然形文	Se(SHU1,Gkm)	私Ga(SHU1,Gkm)は花に水をやっています。 ワシユイツトは花に水をやっています。	若干の困難を伴いつつ自我を何とか明確に保とうとしているこの私自身によると、まさに私が花に水をやっています。	1
第一主我抽化言已然形文	Se(SHU1,Gki)	私Ga(SHU1,Gki)は花に水をやっています。 ワシユイツチは花に水をやっています。	自我を何とか明確に保つことに成功し若干歓喜しているこの私自身によると、まさに私が花に水をやっています。	1
第一主我抽出言未然形文	Se(SHU1,Gsm)	私Ga(SHU1,Gsm)は花に水をやっています。 ワシユイツタは花に水をやっています。	著しい困難を伴いつつ自我を何とか明確に保とうとしているこの私自身によると、まさに私が花に水をやっています。	1
第一主我抽出言已然形文	Se(SHU1,Gsi)	私Ga(SHU1,Gsi)は花に水をやっています。 ワシユイツテは花に水をやっています。	自我を明確に保つことに著しく成功し歓喜しているこの私自身によると、まさに私が花に水をやっています。	1
第一主我・心描言用言文	Se{Ga(SHU1),Gb}	私Ga(SHU1)は花に水をやっています。Gbます。 ワシユイチは花に水をやっています。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が花に水をやっており、私はその現状に過不足なく満足しています。	1
第一主我・抽化言未然形用言文	Se{Ga(SHU1),Gkm}	私Ga(SHU1)は花に水をやっています。Gkmます。 ワシユイチは花に水をやっています。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が花に水をやっていますが、自我によるこの現状の把握に若干の困難を感じます。	1

第一主我・抽出言已然形用言文	Se{Ga(SHU1),Gki}	私Ga(SHU1)は花に水をやっていGkiます。 ワシュイチは花に水をやっていります。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が花に水をやっており、自我によるこの現状の把握達成に若干歓喜しています。	1
第一主我・抽出言未然形用言文	Se{Ga(SHU1),Gsm}	私Ga(SHU1)は花に水をやっていGsmます。 ワシュイチは花に水をやっていります。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が花に水をやっていますが、自我によるこの現状の把握に著しい困難を感じます。	1
第一主我・抽出言已然形用言文	Se{Ga(SHU1),Gsi}	私Ga(SHU1)は花に水をやっていGsiます。 ワシュイチは花に水をやっていります。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が花に水をやっており、自我によるこの現状の把握達成に著しく歓喜しています。	1

1.3 真我変化文

意我活主間我進化(エボリューション)文	Se{Evo(I→KATSU-SHU)}	私Ga(Evo(I→KATSU-SHU))は花に水をやっています。 ワシシンカカッシュは花に水をやっています。	私は、自分の意志で花に水をやることはすでに人為的行為でありつつも、それ以外の時は自然に雨に降られるような状態が花にとってのよりありがたい恵みであると思っていましたが、今や、自然の気象をも人類の手で操作すべく時代が進むべきであるとの考えを持ちながら、花に水をやっています。	1
活主間我意我遡及(レトロアクション)文	Se{Ret(KATSU-SHU→I)}	私Ga(Ret(KATSU-SHU→I))は花に水をやっています。 ワカッシュンキュウイは花に水をやっています。	私は、自然の気象をも人類の手で操作すべく時代が進むべきであるとの考えを持っていましたが、必要最低限の花への水やりは別にしても、自然に降る雨くらいは降らせてあげておくのが降られる花のためではないかと思いつきながら、花に水をやっています。	1

1.4 真我交替文

意我活主間我交替文	Se{CS(I,KATSU-SHU)}	私Ga(CS(I,KATSU-SHU))は花に水をやっています。 ワシーエスイカッシュは花に水をやっています。	私は基本的には、花に水をやる時は、明確に自分の都合でやる必要のある時は別にしても、自然に雨が降る時のようにやるべきだと思っていますが、今日の前にある花は、なぜか人為的に水を注ぎかけるべき対象であると思いますので、花に対して優位な自我を持って花に水をやっています。	1
活主間我意我交替文	Se{CS(KATSU-SHU,I)}	私Ga(CS(KATSU-SHU,I))は花に水をやっています。 ワシーエスカッシュイは花に水をやっています。	私は基本的には、花に対しては、人為的に水を注ぎかけるべき対象であると思います、花に対して優位な自我を持って水をやってきましたが、今日の前にある花には、なぜか自然に雨が降る時のようにやるべきだと思いつき、愛を持って水をやっています。	1

§2 単多我燈文

単多我燈第一 主我・抽化言未 然形用言文	Se{Ga(SHU1),Ga(SHU1), Gkm}	私Ga(SHU1)は花Ga(SHU1)に水をやって いGkmます。 ワシュイチは花シュイチに水をやってい 口ます。	自我が何とか明確なこの私自身によると、まさに私が 花に水をやっているとは思いますが、花が私と同程 度の自我を持ち、私の手を借りて花自身に水をやっ ているかもしれず、この現状の把握に若干の困難を 感じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
単多我燈第三・ 第一主我・抽化 言未然形用言 文	Se{Ga(SHU3),Ga(SHU1), Gkm}	私Ga(SHU3)は花Ga(SHU1)に水をやって いGkmます。 ワシュサンは花シュイチに水をやってい 口ます。	花の持っているかもしれない自我よりは私の自我の ほうが明確な、この私自身によると、まさに私が花に 水をやっているとは思いますが、この現状の把握に 若干の困難を感じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
単多我燈第一・ 第三主我・抽化 言未然形用言 文	Se{Ga(SHU1),Ga(SHU3), Gkm}	私Ga(SHU1)は花Ga(SHU3)に水をやって いGkmます。 ワシュイチは花シュサンに水をやってい 口ます。	私自身によると、まさに私が花に水をやっているとは 思いますが、花を見ていると、花は私以上の明確な 自我を持って、私の手を利用して水を得ているので はないかと思われ、この現状の把握に若干の困難を 感じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
§3 複我燈文				
複我燈第三・第 一主我・抽化言 未然形用言文	Se{Ga(SHU3,SHU1),Gkm}	私Ga(SHU3,SHU1)は花に水をやってい Gkmます。 ワシュサンシュイチは花に水をやってい 口ます。	自我が明晰ながら、稀に自我が若干弱まることある この私自身によると、まさに私が花に水をやってい るとは思いますが、この現状の把握に若干の困難を感 じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
複我燈第一・第 三主我・抽化言 未然形用言文	Se{Ga(SHU1,SHU3),Gkm}	私Ga(SHU1,SHU3)は花に水をやってい Gkmます。 ワシュイチシュサンは花に水をやってい 口ます。	自我が若干抑えられていながらも、稀に明晰になるこ とがあるこの私自身によると、まさに私が花に水を やっているとは思いますが、花を見ていると、花は私 以上の明晰な自我を持って、私の手を利用して水を 得ているのではないかと思われ、この現状の把握に 若干の困難を感じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
§4 複多我燈文				
複多我燈第二・ 第四主我・第 三・第一主我・ 抽化言未然形 用言文	Se{Ga(SHU2,SHU4),Ga(S HU3,SHU1),Gkm}	私Ga(SHU2,SHU4)は花Ga(SHU3,SHU1) に水をやっていGkmます。 ワシュニシュヨンハ花シュサンイチに水を やってい口ます。	自我がほんの少し抑えられていながらも、稀にかなり 明晰になることあるこの私自身によると、まさに私が 花に水をやっているとは思いますが、花を見ている と、花はなかなかの明晰な自我を持って、私の手を利用 して水を得ているのではないかと思われ、その明 晰さは影をひそめることもあり、全体として私の自我よ りは明晰ではないでしょうが、この現状の把握に若干 の困難を感じます。	1 (少なくとも花に水 がかかっていること は真)
§5 超我燈文(超我燈文となりやすい構文をまず以下に示す。)				

「コト」文	Se(N-KOTO) MetaSe(N-KOTO)(以下 同様)	私は花に水をやったことGa(N-KOTO)が 嬉しかった。 ワタシは花に水をやったコトが嬉し かった。	私は、私が花に水をやったというまさにそのことが、嬉 しかった。	1
「モノ」文	Se(N-MONO)	私が花にやったものGa(N-MONO)は水 だった。 ワタシが花にやったモノは水だっ た。	私がまさに花にやったものとは、水だった。	1
「ト」文	Se(C-JPa-TO)	「私は花に水をやっています。」Ga(C-JPa- TO)と私は言いました。 「ワタシは花に水をやっています。」トワタ シは言いました。	「まさに私は花に水をやっています。」ということ、私 は言いました。	1
「コト」半ば文	Se(N-KOTO<>φ)	私は花に水をやったことGa(N-KOTO<> φ)が嬉しかった。 ワタシは花に水をやったコトナカバが嬉し かった。	私は花に水をやって嬉しかった。	1
「モノ」半ば文	Se(N-MONO<>φ)	私が花にやったものGa(N-MONO<>φ)は 水だった。 ワタシが花にやったモノナカバは水だっ た。	私が花にやったのは水だった。	1
「ト」半ば文	Se(C-JPa-TO<>φ)	「私は花に水をやっています。」Ga(C-JPa- TO<>φ)と私は言いました。 「ワタシは花に水をやっています。」トナカ バワタシは言いました。	私は言いました。「私は花に水をやっています。」	1
「コト」抜き文	Se(N-KOTO→φ)	私は花に水をやったことGa(N-KOTO→ φ)が嬉しかった。 ワタシは花に水をやったコトヌキが嬉し かった。	私は嬉しくも花に水をやった。	1
「モノ」抜き文	Se(N-MONO→φ)	私が花にやったものGa(N-MONO→φ)は 水だった。 ワタシが花にやったモノヌキは水だっ た。	私は花に水やった。	1
「ト」抜き文	Se(C-JPa-TO→φ)	「私は花に水をやっています。」Ga(C-JPa- TO→φ)と私は言いました。 「ワタシは花に水をやっています。」トヌキ ワタシは言いました。	私は花への水やりを言った。	1

第一主我昇階文	Se[Promo{Ga(SHU1 ↑ SHU4)}, Ga(SHU1)]	私Promo{Ga(SHU1 ↑ SHU4)}は花に水をやったことGa(SHU1)が嬉しかった。 ワシュイチノポリシュオンは花に水をやったコトシュイチが嬉しかった。	私は、私が花に水をやったというまさにそのことが嬉しかったが、嬉しくない気分で水やりをすることもあるため、水をやった気分としての自我よりも、水をやったことを嬉しがった判断としての自我のほうが高次である。	1
第一主我降階文	Se[Demo{Ga(SHU4 ↓ SHU1)}, Ga(SHU1)]	私Demo{Ga(SHU4 ↓ SHU1)}は花に水をやったことGa(SHU1)が嬉しかった。 ワシュオンオリシュイチは花に水をやったコトシュイチが嬉しかった。	私は、私が花に水をやったというまさにそのことが嬉しかったが、花に水をやること自体が私の嬉しさに合致するため、水をやった自我と、水をやったことを嬉しがった自我とは、後者が前者の次元に降り立つことで一致している。	1
第一主我踊り場滞留文	Se[Land{Ga(SHU1 <> SHU4)}, Ga(SHU1)]	私Land{Ga(SHU1 <> SHU4)}は花に水をやったことGa(SHU1)が嬉しかった。 ワシュイチオドリシュオンは花に水をやったコトシュイチが嬉しかった。	私は、私が花に水をやったというまさにそのことが嬉しかったが、水をやった自我と、水をやったことを嬉しがった自我とでは、後者が前者よりも若干高次である。	1
§6 超単我燈文				
超単我燈一階 第一主我文(ここでは「ト」文でもある。)	MetaSe{1/(SHU1), 2}	「私Ga(SHU1)は花に水をやっています。」と私は言いました。 「ワシュイチは花に水をやっています。」と私は言いました。	「まさに私が花に水をやっているのは間違いないのですが、それはあくまで私の自我が判断したことです。」と私は言いました。	1
超単我燈一階 第一主我・二階 第一主我文	MetaSe{1/(SHU1), 2/(SHU1)}	「私Ga1(SHU1)は花に水をやっています。」と私MetaGa2(SHU1)は言いました。 「ワシュイチは花に水をやっています。」とワシュイチは言いました。	「まさに私が花に水をやっているのは間違いないのですが、それはあくまで私の自我が判断したことです。」と、それを判断した自我と同程度の自我によって私は言いました。	1
超単我燈一階 第二主我・二階 第四主我文	MetaSe{1/(SHU2), 2/(SHU4)}	「私Ga1(SHU2)は花に水をやっています。」と私MetaGa2(SHU4)は言いました。 「ワシュニは花に水をやっています。」とワシュオンは言いました。	「まさに私が花に水をやっているのは間違いないです。」と、それを判断した自我以上の自我の明晰さをもって私は言いました。	1
§7 超単多我燈文				
超単多我燈一階 第一主我・第三主我・二階 第四主我文	MetaSe[1/2{Ga(SHU1), Ga(SHU3)}, 2/Ga(SHU4)]	「私Ga1(SHU1)は花Ga1(SHU3)に水をやっています。」と私MetaGa2(SHU4)は言いました。 「ワシュイチは花シュサンに水をやっています。」とワシュオンは言いました。	「私自身によると、まさに私が花に水をやっているとは思いますが、花を見ていると、花は私以上の明確な自我を持って、私の手を利用して水を得ているのではないかと思われるほどです。」と、水をやった私の自我以上の、かつその花の自我以上の自我の明晰さをもって、私は言いました。	1

<p>超単多我燈一 階第一主我・第 三主我・心描言 用言・二階第四 主我・抽化言已 然形用言文</p>	<p>MetaSe[1/2{Ga(SHU1),Ga(SHU3),Gb},2/{Ga(SHU4),Gki}]</p>	<p>「私Ga1(SHU1)は花Ga1(SHU3)に水をやっていGbます。」と私MetaGa2(SHU4)は言いGkiました。 「ワシュイチは花シュサンに水をやっていルます。」とワシュオンは言いりました。</p>	<p>「私自身によると、まさに私が花に水をやっているとは思いつつ、花を見ていると、花は私以上の明確な自我を持って、私の手を利用して水を得ているのではないかと思われるほどですが、この現状には満足しています。」と、水をやった私の自我以上の、かつその花の自我以上の自我の明晰さをもって、私は歓喜しつつ言いました。</p>	<p>1</p>
<p>超単多我燈一 階第一主我抽 化言未然形・第 三主我抽出言 已然形・心描言 用言・二階第四 主我抽出言未 然形・抽化言已 然形用言文</p>	<p>MetaSe[1/2{Ga(SHU1),Gkm),Ga(SHU3,Gsi),Gb},2/{Ga(SHU4,Gsm),Gki}]</p>	<p>「私Ga1(SHU1,Gkm)は花Ga1(SHU3,Gsi)に水をやっていGbます。」と私MetaGa2(SHU4,Gsm)は言いGkiました。 「ワシュイットは花シュサンレに水をやっていルます。」とワシュオンラは言いりました。</p>	<p>「何とか自我を保ちながらも若干の困難さを感じる私自身によると、まさに私が花に水をやっているとは思いつつ、花を見ていると、花は私以上の明確な自我を著しく健気な様子で持っており、私の手を利用して水を得ているのではないかと思われるほどですが、私は、この現状には満足しています。」と、水をやった私の自我以上の、かつその花の自我以上の自我の明晰さをもって、私は、著しく苦しむ自我を持ちながらも、この発言だけは歓喜しつつ発したのです。</p>	<p>1</p>
<p>超単多我燈一 階具及間我抽 化言未然形・空 識間我抽出言 已然形・心描言 用言・二階第四 主我抽出言未 然形・抽化言已 然形用言文</p>	<p>MetaSe[1/2{Ga(GU-KYU,Gkm),Ga(KU-SHIKI,Gsi),Gb},2/{Ga(SHU4,Gsm),Gki}]</p>	<p>「私Ga1(GU-KYU,Gkm)は花Ga1(KU-SHIKI,Gsi)に水をやっていGbます。」と私MetaGa2(SHU4,Gsm)は言いGkiました。 「ワグキウロは花クウシッケに水をやっていルます。」とワシュオンラは言いりました。</p>	<p>「道具を用い対象に影響を及ぼす行為をする自分については何とか自我を認めつつも、若干の困難さを感じる私自身によると、まさに私が道具であるジョウロやホースを用いて対象である花に水をやっていると思いつつ、花を見ていると、何だか花も、私の苦勞をかなり分かってきて、花の意識・自我なるものが芽生え始めているかのように私には感じられ、私はそんな現状に満足しています。」と、水をやった私の自我以上の、かつその花の自我以上の自我の明晰さをもって、私は、著しく苦しむ自我を持ちながらも、この発言だけは歓喜しつつ発したのです。</p>	<p>1</p>
<p>§8 超複我燈文</p>				

<p>超復我燈一階 具及間我能我 抽化言未然形・ 心描言用言・二 階第四主我抽 出言未然形・抽 化言已然形用 言文</p>	<p>MetaSe[1/2{Ga(GU- KYU,NO,Gkm),Gb}, 2/{Ga(SHU4,Gsm),Gki}]</p>	<p>「私Ga1(GU-KYU,NO,Gkm)は花に水を やっています。」と私 MetaGa2(SHU4,Gsm)は言いGkiました。 「ワグキュウカンノウロは花に水をやって います。」とワシュヨンラは言いました。</p>	<p>「道具を用い対象に影響を及ぼす行為をする自分については何とか自我を認め、かつそのような行為が自分にはできるとの自信を何とか持ちつつも、若干の困難さを感じる私自身によると、まさに私が道具であるジョウロやホースを用いて対象である花に水をやっているのだと思え、私はそんな現状に満足しています。」と、それを判断した私の自我以上の自我の明晰さをもって、私は、著しく苦しむ自我を持ちながらも、この発言だけは著しく歓喜しつつ発したのです。</p>	<p>1</p>
<p>§9 超復多我燈文</p>				
<p>超復多我燈一 階具及間我能 我抽化言未然 形・空識間我 抽出言已然形・ 心描言用言・二 階第四主我抽 出言未然形・抽 化言已然形用 言文</p>	<p>MetaSe[1/2{Ga(GU- KYU,NO,Gkm),Ga(KU- SHIKI,Gsi),Gb}, 2/{Ga(SHU4,Gsm),Gki}]</p>	<p>「私Ga1(GU-KYU,NO,Gkm)は花Ga1(KU- SHIKI,Gsi)に水をやっています。」と私 MetaGa2(SHU4,Gsm)は言いGkiました。 「ワグキュウカンノウロは花クウシッケに水 をやっています。」とワシュヨンラは言 いました。</p>	<p>「道具を用い対象に影響を及ぼす行為をする自分については何とか自我を認め、かつそのような行為が自分にはできるとの自信を何とか持ちつつも、若干の困難さを感じる私自身によると、まさに私が道具であるジョウロやホースを用いて対象である花に水をやっているのだと思いつつ、花を見ていると、何だか花も、私の苦勞を分かってくれて、花の意識・自我なるものが芽生えているかのように、私には感じられ、私はそんな現状に満足しています。」と、それを判断した私の自我以上の、かつその花の自我以上の自我の明晰さをもって、私は、著しく苦しむ自我を持ちながらも、この発言だけは著しく歓喜しつつ発したのです。</p>	<p>1</p>
<p>§10 特殊我燈文</p>				
<p>第四主男我文</p>	<p>Se{GaD(SHU4)} Se{Ga♂(SHU4)}</p>	<p>僕(俺・吾輩・男・男我…) GaD(SHU4)は 花に水をやっています。 ボク(オレ・ワガハイ・オトコ・ダンガ…) シュオンは花に水をやっています。</p>	<p>相当に明白な男の自我を有する我輩は、花に水を やっているのであります。</p>	<p>1</p>
<p>能女我文</p>	<p>Se{GaJ(NO)} Se{Ga♀(NO)}</p>	<p>私(女・女我・あたい…) GaJ(NO)は花に 水をやっています。 ワ(タシ)(オンナ・ジョガ・アタイ…)は花 に水をやっています。</p>	<p>私は女の自我によって、私にできる行為としての花へ の水やりをやっているの。</p>	<p>1</p>
<p>能巫女我文</p>	<p>Se{GaM(NO)} Se{GaM♀(NO)}</p>	<p>私(女・女我…) GaM(NO)は花に水をやっ ています。 ワ(タシ)(オンナ・ジョガ…)ミコは花に水 をやっています。</p>	<p>私は、巫女としての女の自我によって、私にできる行 為としての花への水やりをやっているの。</p>	<p>1</p>

識神我文	Se{GaK(SHIKI)}	私GaK(SHIKI)は花に水をやっています。 ワ(タシ)カミは花に水をやっています。	神託を受けたという意識を持っている私は、花に水をやっています。	1
識仏我文	Se{GaH(SHIKI)}	私GaH(SHIKI)は花に水をやっています。 ワ(タシ)ホトケは花に水をやっています。	仏の恵みを受けたという意識を持っている私は、花に水をやっています。	1
§ 11 巨帯自我文(メガロエゴ文・ハイパー自我文とも。将来的に人間に宿る第五・第六主我以降の主我による文)				
巨帯自我文	MetaSe{MEGALO-EGO(SHU6)}	私MEGALO-EGO(SHU6)は花に水をやっています。 ワメガロエゴは花に水をやっています。	唯一神は世界の真理であり、私はその神託を受けた自我主体であるから、私の信ずる神は全人類が信ずべき神であり、私が花に水をやっているという事実は、ありとあらゆる宇宙世界の公理系において絶対的真理であり、これを批判する他者の存在は許さない。(現在の一神教とも異なる。)	1
§ 12 特殊空我文(空我文の究極形。岩崎式日本語による仏教哲学・禅哲学の記述に使用。)				
即然文	Se(SokuZen)	私Ga(SokuZen)は花に水をやっています。 ワソクゼンは花に水をやっています。	私が花に水をやっているとは、私が花に水をやっているか、私が花に水をやっていないかのいずれか、または、私が花に水をやっている最中か、私が花に水をやり終えたかのいずれかが、真実であるということです。	0~1
即非文	Se(SokuHi)	私Ga(SokuHi)は花に水をやっています。 ワソクヒは花に水をやっています。	私は花に水をやっています。つまり、私は花に水をやっていません。よって、私は花に水をやっていません。	0~1
絶対矛盾的自己同一文	Se(ZMJD)	私Ga(ZMJD)は花に水をやっています。 ワゼッドエムジェイディーは花に水をやっています。	私が花に水をやっていることとやっていないこととは絶対的な矛盾において自己同一しつつ、私は花に水をやっています。	0~1
§ 13 命題・述語論理 (全て具女我文において示す。先述のどの主我・真我・単我・複我・多我・超我・特殊我においても述語論理文は作成可能である。また、読む際に論理値を読むことが許される。)				
前提	命題P	私は花に水をやっています。	命題Pが真であるとする。	1
前提	命題Q	その女は私です。	命題Qが真であるとする。	1
具女我第一命題文	Se[GaJ{GU(P)},Ga{ZEN(Q)}]1(P)	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっています。 (イチ)ワオンナグピーが花に水をやっています。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「私は花に水をやっています。」は本当です。	1

具女我第二命題文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]1(Q)$	春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。 (イチ)春風ゼンキューが吹いています。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「春風が吹いています。」は本当です。	1
否定具女我第一命題文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0(\neg P)$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっていません。 (レイまたはゼロ)ワオンナグピーは花に水をやっていません。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「私は花に水をやっていません。」は嘘です。	0
否定具女我第二命題文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0(\neg Q)$	春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。 (レイまたはゼロ。以下同様)春風ゼンキューが吹いていません。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「春風が吹いていません。」は嘘です。	0
具女我矛盾文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0(P \wedge \neg P)$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっていますし、かつ私GaJ{GU(P)}は花に水をやっていません。 ワオンナグピーは花に水をやっていますし、かつワオンナグピーは花に水をやっていません。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「私は花に水をやっていますし、かつ私は花に水をやっていません。」は嘘です。	0
具女我恒真(トートロジー)文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]1(P \vee \neg P)$	私GaJ{GU(P)}が花に水をやっているか、私GaJ{GU(P)}が花に水をやっていないかの、どちらかです。 ワオンナグピーが花に水をやっているか、ワオンナグピーが花に水をやっていないかの、どちらかです。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「私が花に水をやっているか、私が花に水をやっていないかの、どちらかです。」は本当です。	1
具女我論理積文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.9(P \wedge Q)$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっていますし、かつ春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。 (レイテンキュー。以下同様に論理値を読んでよい)ワオンナグピーは花に水をやっていますし、かつ春風ゼンキューが吹いています。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、「私は花に水をやっていますし、かつ春風が吹いています。」が本当である確率は、90%です。	0.9

否定具女我論 理積文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.1(\neg(P \wedge Q))$	私GaJ{GU(P)}が花に水をやっていないか、 または、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていませ ん。 ワオンナグピーが花に水をやっていない か、または、春風ゼンキューが吹いていま せん。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私は花に水をやっていないか、または、 春風が吹いていません。」が本当である確率は、10% です。	0.1
具女我論理和 文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]1(P \vee Q)$	私GaJ{GU(P)}が花に水をやっているか、ま たは、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。 ワオンナグピーが花に水をやっている か、または、春風ゼンキューが吹いていま す。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私が花に水をやっているか、または、春 風が吹いています。」は本当です。	1
否定論理和文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.15(\neg(P \vee Q))$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっておらず、か つ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。 ワオンナグピーは花に水をやっておら ず、かつ、春風ゼンキューが吹いていま せん。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私は花に水をやっておらず、かつ、春 風が吹いていません。」が本当である確率は、15%で す。	0.15
具女我論理包 含文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.85(P \rightarrow Q)$	私GaJ{GU(P)}が花に水をやっていないか、 または、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。 ワオンナグピーが花に水をやっていない か、または、春風ゼンキューが吹いていま す。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私が花に水をやっていないか、または、 春風が吹いています。」が本当である確率は、85%で す。	0.85
否定具女我論 理包含文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.25(P \wedge \neg Q)$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっており、か つ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。 ワオンナグピーは花に水をやっており、 かつ、春風ゼンキューが吹いていません。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私は花に水をやっており、かつ、春風が 吹いていません。」が本当である確率は、25%です。	0.25
逆具女我論理 包含文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.8(P \leftarrow Q)$	私GaJ{GU(P)}が花に水をやっているか、ま たは、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。 ワオンナグピーが花に水をやっている か、または、春風ゼンキューが吹いていま せん。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私が花に水をやっているか、または、春 風が吹いていません。」が本当である確率は、80%で す。	0.8
否定逆具女我 論理包含文	$Se[GaJ\{GU(P)\}, Ga\{ZEN(Q)\}]0.3(\neg P \wedge Q)$	私GaJ{GU(P)}は花に水をやっておらず、か つ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。 ワオンナグピーは花に水をやっておら ず、かつ、春風ゼンキューが吹いていま す。	「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いていま す。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ 私にとって、「私は花に水をやっておらず、かつ、春 風が吹いています。」が本当である確率は、30%で す。	0.3

具女我同値(具女我必要十分条件)文	Se[GaJ{GU(P)},Ga{ZEN(Q)}]0.85(P=Q)	<p>「私GaJ{GU(P)}は花に水をやっていますし、かつ春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。」または、「私GaJ{GU(P)}は花に水をやっておらず、かつ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。」</p> <p>「ワオンナグピーは花に水をやっていますし、かつ春風ゼンキューが吹いています。」または、「ワオンナグピーは花に水をやっておらず、かつ、春風ゼンキューが吹いていません。」</p>	<p>「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、『「私は花に水をやっていますし、かつ春風が吹いています。」または、「私は花に水をやっておらず、かつ、春風が吹いていません。」』が本当である確率は、85%です。</p>	0.85
排他的具女我論理和文	Se[GaJ{GU(P)},Ga{ZEN(Q)}]0.2(P≠Q)	<p>「私GaJ{GU(P)}は花に水をやっておらず、かつ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いています。」または、「私GaJ{GU(P)}は花に水をやっており、かつ、春風Ga{ZEN(Q)}が吹いていません。」</p> <p>「ワオンナグピーは花に水をやっておらず、かつ、春風ゼンキューが吹いています。」または、「ワオンナグピーは花に水をやっており、かつ、春風ゼンキューが吹いていません。」</p>	<p>「私は花に水をやっています。」と「春風が吹いています。」を信じ、道具を使えるくらいの女の自我は持つ私にとって、『「私は花に水をやっておらず、かつ、春風が吹いています。」または、「私は花に水をやっており、かつ、春風が吹いていません。」』が本当である確率は、20%です。</p>	0.2
§ 14 読解不可能文(文脈不可解文とも。主に、主我・男我により真我・女我・巫女我に対して呼ばれる。)				
読解不可能初女我・前我文	Se0.9(INCOM)[GaJ{SHO(P)},Ga{ZEN(Q)}]	<p>私GaJ{SHO(P)}が花に水をやっており、かつ春風Ga{ZEN(Q)}が吹いているならば、女は水であります。</p> <p>ワオンナショが花に水をやっており、かつ春風ゼンが吹いているならば、女は水であります。</p>	<p>女の自我の萌芽の時期を生きる私が花に水をやっており、かつ自我を持たないありのままの春風が吹いているならば、女は水であるのです。そのことは、9割方真実であるのです。</p>	0.9
§ 15 「女の理由」文(シェイクスピアの『ヴェローナの二紳士』に基づく命名。)				
「女の理由」初我文	Se1(WR)[GaJ{SHO(P)},Ga{ZEN(Q)}]	<p>WR私GaJ{SHO(P)}が花に水をやっており、かつ春風Ga{ZEN(Q)}が吹いているならば、女は水であります。</p> <p>ダブリュアールワオンナショが花に水をやっており、かつ春風ゼンが吹いているならば、女は水であります。</p>	<p>女の自我の萌芽の時期を生きる私が花に水をやっており、かつ自我を持たないありのままの春風が吹いているならば、女は水であるのです。女が水であるのは、女が水であるからで、そう私が思うのは、女の理由からです。</p>	1

Copyright (C) 2005-2012 岩崎純一
All Rights Reserved.
<http://iwasakijunichi.net/>